

小田原テニスリーグ戦 規定 Q&A

2019年1月26日改訂

規定1. 選手登録

- 1)登録されていない選手が、登録されている選手の名前を使って出場した場合、該当年度の全試合を没収試合とし、該当チームはスコアを男子0-9、女子0-5とする。(対戦チームは男子9-0、女子5-0とする。)
また、翌年度のリーグ戦へのチーム登録を禁止し、翌々年度への登録時は新規登録扱いとする。
さらに、該当チームに登録していた選手および名前を偽って出場した選手は、翌年度のリーグ戦への出場を禁止する。
- 2)追加登録選手の連絡は、既に対戦が終わったチームには不要である。
- 2)登録選手が他のチームとの二重登録が判明し、試合に参加した場合、その試合は没収試合とし、該当選手が所属するチームのスコアを男子0-9、女子0-5とする。(対戦チームは男子9-0、女子5-0とする)

規定2. 試合日程の再調整

- 1)試合消化期日までに消化できなかった場合は、没収試合とし、スコアを両チーム男子0-9、女子0-5とする。
また、ホームチームが候補日を設定せずに、試合を実施できなかった場合はホームチームの棄権負けとする。
- 1) 延期日程の調整をEmailで行う場合は、ccで「リーグ戦調整履歴保存メール」(leag-cc@odawara-ta.org)にも同報しておくこと。
「リーグ戦調整履歴保存メール」に送られたメールは日程調整に問題が発生した場合に初めて確認しますので各部担当者にすぐに相談したい場合は、直接連絡すること。
なお、この「リーグ戦調整履歴保存メール」に同報していないEmailは、協会が調整にはいる場合に公式文書とは認めません。
- 1) 延期日程の調整は以下を原則(協会調整時の判断基準)とする。
ホームチームは、コートを確認する義務を負うかわりに、日程を決定する権利がある。
ホームチームが、日程候補を日曜日/祝日の2日以上提示した場合は、アウェイチームはそのどちらかを選択しなければならない。
ただし、小田原テニス選手権の実施日、テニス協会主催講習会実施日、は上記対象外とする。
ホームチームは、原則として4週間前の前日まで日程候補を通知し、アウェイチームは通知後2週間以内に回答する。
ただし、リーグ戦期限までの期間が短い場合は上記原則に限らず、実施することを優先すること。
また、延期日程調整が困難な場合は、両チームの合意があれば、複数日程の分割開催も可能とする。

規定3. 試合方法

- 2)リーグ戦は協会内部の親睦及び技能向上を目的に開催しています。
いわゆる“作戦オーダー”は、本趣旨とはかけ離れているため、実力順にオーダーを組むことを促しています。
実力順になっていないという報告が担当理事になされた場合、担当理事から該当チームへ注意を勧告します。
また、調査の上、HPIに該当チーム名、メンバー氏名の公表を行う場合があります。
報告の件数があまりにも多い場合や注意しても改善されない場合は、運用ルールを見直します。
- 4)延期時の試合日程は、複数日に渡っても構わない。
- 7)使用するボールは、ホームチームの時は、男子はダブルス4試合分、女子はシングルス2試合分を負担する。
アウェイチームの時は、男子はシングルス5試合分、女子はダブルス3試合分を負担する。

規定4. 使用するコート

- 2)協会が確保したコートを使用する場合、ホームチームは1試合当たり男子6000円、女子3000円支払うこと。
(小田原テニスガーデンと他の協会確保コートで単価が異なるため平均化した額です。)

【協会確保コートのキャンセルについて】

協会確保コートを使用する権利があるチームはコートの使用をキャンセルすることはできません。
チーム都合により試合を行わなかった場合もホームチームは1試合当たり男子6000円、女子3000円支払うこと。
また、協会確保コートはリーグ戦を優先するので、キャンセルしたチームが規定した使用料を支払っても、練習には使用できません。但し、当日のリーグ戦終了後の練習は可能です。

ホームチーム	アウェイチーム	試合場所	コート代
一般チーム (非確保、企業で確保など、営業チーム以外)	一般チーム 営業チーム	協会確保コート	ホームが協会に支払う 男子:6000円、女子:3000円
一般チーム	一般チーム 営業チーム	公営コート	ホームが全額負担
一般チーム	一般チーム	営業クラブのコート	ホームが全額負担
一般チーム	営業チーム	営業チームのコート (アウェイチームのコートを借用する場合)	ホームが上限3万円(女子半額)を営業クラブに支払い、協会が営業クラブに1万円(女子半額)を支払う
営業チーム	一般チーム	営業チームのコート	協会が営業クラブに1万円(女子半額)を支払う
営業チーム	営業チーム	営業チームのコート (ホームの)	協会が営業クラブに1万円(女子半額)を支払う

★営業チームがホームの場合、小田原テニスガーデンなどの公営コートの利用を禁止する。

営業チーム: 足柄ロンTC、オレンジヒルTC、開成グリーンTC、富士見TC、BEATTC

- 3).
 - ・二宮町緑が丘テニスコート(Zip TC)は、対戦チームの同意が得られれば、使用を認める。
 - ・湯河原海浜コートの使用は、当協会のエリア外であるため、認めていない。

規定5. 結果報告/延期報告

- 1)リーグ戦速報センターへの報告は、男子(女子)何部何ブロックのどのチームの対戦で、スコアがいくつでどちらが勝ったのか明記してください。

記載例
男子3部Bブロック
★★★ v s ◆◆◆
6-3で◆◆◆の勝ち

- 怪我等によるリタイアの場合は、リタイアまでに成立したゲームを記録し、retと記入する。セット数は、残りゲームをすべて相手チームが取得したこととして、記録する。(A対Bの3セットマッチで、Bが64.21の時に、怪我でリタイアしてAが勝利した場合、右の記載例のように記録する。)

記載例		
選手 A 2	$\begin{bmatrix} 4-6 \\ 1-2 \text{ ret} \end{bmatrix}$	1 選手 B

- ファイナルセットは、ゲームカウントはタイブレークの結果を記入する

記載例		
選手 A 2	$\begin{bmatrix} 4-6 \\ 6-2 \\ 10-8 \end{bmatrix}$	1 選手 B

- 棄権などで試合が不成立だった場合、勝ちチームが棄権勝ちであることをリーグ戦速報センターへ報告し、棄権勝ちと明記して結果報告書を各部担当理事に郵送すること(相手チームのサインは不要)。

規定7. リーグ戦順位&入れ替え

- 3)ブロック優勝チームは必ず上位の部に昇格する。
上位の部が5チーム、6チームと混在し、翌年、5チームのみの編成となり、上位の部のチーム総数が減少するような場合、ブロック優勝チームの昇格を優先し、上位の部の降格チーム数を調整する。
逆に、上位の部のチーム総数が増加する場合は、ブロック優勝チームのみが昇格し、上位の部の降格チーム数を調整する。但し、必要チーム数を調整しきれない場合は、優勝チームに次ぐ成績のチームが昇格する。

規定8. その他運営事項

- 3)2019年度の試合消化期日は11月10日までとする。日程調整会議では雨による延期試合を考慮し設定ください。

2019年度継続[男子1部の名簿登録とオーダー]

- 以下の施策を、男子1部チームで、H27年度の施策を継続して実施する。

1-1. オーダー

シングルスは、名簿登録順とする。

ダブルスは、名簿登録順と関係なく、実力順とする

1-2. 登録

名簿登録は、優先登録者→優先登録者以外 の順で登録する。

優先登録者の中、優先登録者以外の中、の登録順は、実力順とする。

追加登録は、上記と関係なく、登録の最下位に追加する。

優先登録者:

- ・昨年度、一昨年度の2年間の

小田原テニス選手権(単)の一般優勝・準優勝

神奈川県選手権(単)の一般優勝・準優勝

- ・JTAランキング

1/1現在の一般男子シングルス:1000位以内

例:

メンバー:

錦織 (JTA1位)

伊藤 (県選手権(単)準優勝)

田中 (小田原選手権(単)優勝)

松岡

杉田

坂井 (小田原選手権(複)優勝)

守屋

内山

大石

盛田

[追加登録]岩淵(JTA245位)

名簿登録

1. 錦織 優先登録者

2. 伊藤 優先登録者

3. 田中 優先登録者

4. 坂井

5. 盛田

6. 松岡

7. 大石

8. 守屋

9. 杉田

ある日のオーダー

S1.①錦織

S2.②伊藤

S3.④坂井

S4.⑤盛田

S5.⑩岩淵

D1.③田中・⑩岩淵

D2.①錦織・④伊藤

D3.⑤盛田・⑨杉田

◇その他補足説明◇

- ・本大会は「JTAルールブック2018」を採用します。

・セルフジャッジについて

- ・セルフジャッジは自分コート側のアウト/インのジャッジは自身で速やかに判断しなければならない。きわどく判定ができないときはグッド(相手側有利)と判定する。
- ・サーバーはゲームの開始時はゲームカウント、ポイントの開始時はカウントを相手に聞こえるように大きな声でコールする。
レシーバーは同意を示すためにサーバーのコールに対し合図を送り相互確認を確実にすること。

・フットフォルトやラインジャッジについて

- ・ボールマーク調査(BMI)について、小田原テニスリーグ戦ローカルルールとして、クレーコートも含め、BMIは行えないこととする。
- ・フットフォルトやラインジャッジについて、試合進行上問題があれば、両チームで協議の上、線審をつけることができる。その場合、両方のライン(エンドラインなど)に必要な応じて、それぞれのチームから同数の線審をつけること。但し、あくまでもセルフジャッジであり、線審はフットフォルトや選手のコールが明らかに間違っていた場合にのみ、オーバールールを行うことができる。

・けいれんの処置について

- ・けいれんによるメディカルタイムアウト(MTO)を取得することはできません。
但し、ゲームの途中でけいれんによってプレーができなくなった場合は、次のエンド交代時、またはセットブレークまでポイントまたはゲームを失い、それぞれの時間内(90秒、120秒)でのみ治療をすることは可能。

・コーチングについて

- ・コーチングはベンチコーチのみ行うことができる。ベンチコーチは試合毎に1名とし、途中での交代を認める。
- ・ベンチコーチは、チームメンバーである必要はない